「みんなの子育て施設（仮称)」の建設寄付金のお願い

障がいがあってもなくても、
一人の困ったは、みんなの困ったです。
一人の困ったへ、取り組むとみんなの困ったの役に立つと勝手に信じています。

目的は、障がいがあってもなくても参加できる一つの空間です。

1 階	訪問歯科診療所と医療型短期入所施設 **「かぼちゃん 2nd.」** 人工呼吸器などの医療ケアが必要な子のお預かり 活動：体験型活動、泥んこクラブ、e-スポーツセンター
2 階	**「おしゃべりクラブ」** アレルギー食　お料理教室 お母さんとベビーマッサージ教室 子ども食堂 気道クリアランス講座

【振込先】
熊本銀行　菊南支店　普通預金
口座番号　３０９７７９２
口座名義　医療法人おがた会　理事長　緒方健一

ご寄付頂いた方のお名前を施設のモニュメントへ入れさせていただきます。
また、施設名も募集しています。

施設完成予想図

【連絡先】
FAX：096-228-8100
メール：kabochanclub@yahoo.co.jp

熊本市で小児科や短期入所施設を運営する医療法人「おがた会」が、人工呼吸器を使うなど在宅の重い障害児や家族を支える新たな拠点施設の建設計画を進めている。一時預かりだけでなく、呼吸や栄養状態など子どもの体調をきめ細かくサポート。学齢期後の通い先として地域と連携し「eスポーツ」などに取り組める環境も整える。「親亡き後」も見据え、長期的な視点で支援を提供する施設は全国的にも珍しい。

計画は、難病の親子を支える地域拠点（全国計30カ所）整備を後押しする日本財団の支援事業に選ばれており、約7千万円の助成が決定済み。

ワードBOX

医療型短期入所　人工呼吸器を着けるなどした障害児者らを対象に1日～数週間預かり、入浴や食事のほか必要な医療的ケア（医ケア）、介護を提供するサービス。病院や診療所が事業として行い、空きベッドなどを活用する例が多い。リハビリやレクリエーションなど日中活動の場としても期待される。在宅の介護者が病気になったときや休息したいときなどに利用可能。医ケア児者が増えニーズが高まる一方、事業所は全国的に不足している。

傾聴記

重い障害児を支え続ける新拠点

呼吸や栄養ケア　成人後も見据え

熊本市の医療法人が計画

同法人は年内のオープンを目指し、建設・運営費として寄付金を募っている。同市北区に「おがた小児科・内科医院」を開業して20年になる理事長の緒方健一さん(65)は「医療だけで暮らしは支えられない。親の負担や将来の不安を和らげ、子どもたちの社会参加の可能性を広げるためにも、支援の場を広げ、そのノウハウの普及にも力を入れたい」と語る。

笑顔で帰すために

おがた会は2014年から、小児科に併設する形で医療型短期入所施設「かぼちゃんクラブ」を運営。たんの吸引など、子どもの医療的なケアに24時間携わる親の負担軽減だけが目的ではない。子どもの呼吸状態を改善するため、リハビリの一環として「気道クリアランス」に取り組んでいるのが特徴だ。

専用の排痰補助装置などを使って気道を十分に確保し、胸郭や肺を広げて深呼吸しやすくする。生後すぐ気管切開をした子どもでも、定期的にこの処置を受けると、就学期には気管孔を閉じる手術をして呼吸が安定し、通学が可能になるケースも多いという。

施設では利用者を寝かせきりにせず、釣りなど野外活動にも積極的に連れ出している。「呼吸器系のトラブルがなくなれば、日常生活の場が広がる。何より子どもが笑って帰れば、母親も預ける罪悪感がなくなります」（緒方さん）

ただ、現状では短期入所の定員は5人で、利用待機者は10人以上。新施設は医療型短期入所事業を柱とし、一時預かりのニーズに対応するほか、気道クリアランスを普及するため全国の医療や看護職を対象とした実技研修の拠点とする。

ほかに歯科医師や栄養士も配置。胃ろうの子どもには見過ごされがちな、口腔ケアや栄養カロリー、食物アレルギー面でのチェックやアドバイスも行う。

つながり続ける場

一方、医療的ケアが必要な重い障害児者は就労が難しく、学校卒業後の通い先も乏しい。新施設では生活介護事業も実施。その活動の一つとして想定しているのが、コンピューターゲームで競うeスポーツだ。

熊本県では近年、障害者などの支援の一環として民間企業などによるeスポーツのイベントが盛ん。重い障害があっても、視線入力装置や指、足先などに取り付けるセンサーを使えば、キーボードなどを操作してゲームを楽しむことができる。

「娯楽を入り口に視線入力やセンサーに慣れれば、そうしたスイッチを用いて意思表示し、コミュニケーションする力がつく」と考え、緒方さんも子どもたちに積極的に勧めてきた。

新施設にはeスポーツ用のスクリーンや機材を設置するスペースも確保。建設予定地に隣接する高齢者のデイケア施設利用者との交流なども検討している。

長男(6)が定期的に気道クリアランスの処置を受け、eスポーツも楽しんでいるという母親の西岡紘子さん(35)＝同市＝は「呼吸のリハビリをしているおかげで気管切開をせずに体調を維持できている。eスポーツをきっかけに、知らない人と話す自信もでてきた」と言う。「学校卒業後に行き場がなく家に閉じこもる人が多い。ゲームに限らず、人と出会い、つながり、刺激を受けられる場所が増えてほしいです」

◇　◇

新施設の予定地は、おがた小児科・内科から北東に約1キロ離れた同市北区内。災害時の避難場所として非常用の水のタンクも備えるほか、きょうだい児も含めた心の相談など家族へのサポート事業にも乗り出す。

建設費として約2千万円が不足しているという。寄付金の振込先は「熊本銀行　菊南支店　普通預金　口座番号3097792」、名義は「医療法人　おがた会　理事長緒方健一」。新施設の名称も募集中。ファクス＝096(228)8100、メール＝kabochanclub@yahoo.co.jp

（編集委員・三宅大介）

上「かぼちゃんクラブ」を利用する子どもたちやスタッフと外出を楽しむ緒方健一さん（手前右端）＝提供写真
下新拠点施設の完成予想図

短期入所中、見学に訪れた両親らの前で視線入力によるeスポーツに熱中する子どもたち　＝提供写真

福祉　寄り添う